

茅ヶ崎市自立支援協議会地域支援体制強化部会報告書（令和 4 年度第 1 回情報提供のあり方ワーキング）

件名	2022 年度 地域支援体制強化部会 情報提供の在り方ワーキング報告書
日 時	令和 5 年 1 月 27 日（金） 10 時 30 分～12 時 00 分
場 所	茅ヶ崎市立総合体育館 2 階会議室 1
事務局	生活相談室とれいん
出席者	<p>※出席者については部会員のうち、ワーキングのメンバーのみとなります。</p> <p><input type="checkbox"/>菅野 久子（当事者）</p> <p>■下村 耕一郎氏（神奈川県立茅ヶ崎養護学校）</p> <p><input type="checkbox"/>田邊 貴祥（茅ヶ崎市地域作業所連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>野口 新平（茅ヶ崎市・寒川町相談支援事業所連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>田島 淳一郎（茅ヶ崎市・寒川町居宅介護事業所連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>棚橋 利恵（茅ヶ崎市・寒川町ホーム連絡会）</p> <p>■植野 ゆかり（茅ヶ崎市障害者施設連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>毛利 和夫（茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会）</p> <p><input type="checkbox"/>尾辻 涼（茅ヶ崎市保健所）</p> <p>■上杉 桂子（茅ヶ崎市障害者団体連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>佐藤 力哉（茅ヶ崎市障害者団体連絡会）</p> <p>■池元 佑輔（自立支援協議会事務局：茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■小清水 茜（自立支援協議会事務局：茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■鈴木 岳（オブザーバー：茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■安田 のり子（事務局：生活相談室とれいん）</p> <p>■堀井 雪江（事務局：生活相談室とれいん）</p> <p style="text-align: right;">■出席 <input type="checkbox"/>欠席</p>
議題・検討内容	<p>1. あいさつ・開会 事務局生活相談室とれいん安田より開会の挨拶。</p> <p>2. 「ちがさき障がい者支援アプリ」の紹介（資料 1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校の支援級や茅ヶ崎養護学校では既に案内を配っている。 ・障がい福祉課の窓口で職員と一緒にアプリを開きながら説明ができる。 ・オンライン相談予約は申込時に事前に相談内容を聞きとる為、その内容に応じて相談を受ける職員を決めて対応する。 ・1/24 からスタートしているが、市へ障害のある子どもの登録を家族がしても良いかという内容の問い合わせが多い。行ってもらって構わないと返答している。（部会員より） ・アプリでの情報の受け取り方になじみのある若い世代には評判が良い。 ・障害のある本人やアプリのなじみのない家族にとっては利用や理解が難しい方もいる。

・今までの『障がい福祉のあんない』は窓口にもらいに行かなければ得られなかった。持っていて何年も前のものをずっと使っていて、最近の情報がアップデートされていない方もいたので、アプリを活用できる方にとっては良い方法ができたのではないかな。

3. ワーキンググループの検討テーマについて

○第1回部会の振り返り（資料2）（資料3）（資料4）

○ワーキンググループで検討するテーマと方向性

★移行期に必要な情報提供の方法

・学校では、地域の小中学校の普通級から養護学校に入る子の家族はとくに情報を得られていない様子。小さい頃から特別支援学校の方は情報を得るネットワークもある。小中学校の先生にも差があり、情報を良く知らない人もいるだけでなく、情報提供の内容が学校によっても違い、その違いでもれてしまう方もいる。誰でも共通して同じ内容を得られる仕組みがあると良い。

・当事者の会では講師に招き、20歳になるまでに知っておくべき事という研修をたびたび開いている。親は今知っておくべき事の他に、20歳までの全体像を知っておきたい。親の会に入っていないなくても同じ知識を得られる仕組み作りが必要。

・学校でも進路担当になる先生向けに研修がある。早いうちから先を知った上で進路を考えていけると良いと教えてもらっている。

・基幹相談が今後できるが、そこで定期的に親に向けてレクチャーしてもらいたい。

・障害福祉から介護保険の切り替えについて、費用負担面の事もありなかなか相談員から伝えていく事ができていない。

・相談する側としては児童から障害、高齢の分野まで全体を知っている人がいたら良いと感じている。

★福祉サービスの情報提供の方法（ちがさき障がい者アプリの活用等）

・IT化は誰にとっても便利になるわけではない。ひとつの媒体でしか情報を得られないという状況にならないよう、アプリだったり紙であったりいろいろな人を網羅できるような複数の伝え方を考えていく必要がある。

・養護学校では、保護者向けの書類と児童向けの書類は書き方を変えている。具体的にはひとつの文章を長くせず、箇条書きにしたりしている。子どもたちにとって分かりやすいものは誰にとっても分かりやすい。

・障害者にもわかりやすい伝え方、書き方について、噛み砕きの表現やそのコツについて勉強していけると良い。

・資料を作っていくにあたり、全てを盛り込んだり、噛み砕いた表現をしたりしてしまうとすごい量になってしまうので、落とさないといけない情報も出てく

	<p>る。その為要約や省略が必要になるが、それはどうしても行った人の主観が入ってしまう側面から、チームで行っていけると良いのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取捨選択を行うにはノウハウが必要。又村さんに事情を伝え、お話が伺えると良いのではないかな。まずは上杉さんからお話をしてみたい事となる。 ・実は4月くらいから JR で障害者用の Suica ができ、これまで窓口での手続きが必要であったところが自動で割引をしてもらえるようになる。こういった障害者に関する新しい情報もアプリで配信してもらえるが良いのではないかな。 ・それぞれの年代別（小中学校→高校→成人→高齢）の必要な情報や、知っておくと便利な情報について項目を検討し、まとめていけると良いのではないかな。 ・公的制度プラスアルファがまとめられると良い。例えば年金をもらう為に本人用の通帳を作ろうとした時に、後見人を立てなければならなかったケースも聞いている。行政が言うのは難しい側面もあるだろうが、親権がある年齢のうちに本人名義の通帳を作ってあげられると良いというようなお役立ち情報も伝えられると良いのではないかな。 <p>★他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険の事で、この前施設でレクリエーションを開催した。福祉ではない一般の企業に来てもらってお話を聞かせてもらったのだが、新しい発見が多かった。これまで精神疾患のある方は生命保険に入れなかった。しかし、最近では生命保険もいろいろなものが増えてきており、年金や病気への備え、入院時の付き添いの事等いろいろとお話を聞かせてもらい、福祉業界のつながりにとどまらない、様々な会社の話聞く機会を作っていけると良いと感じた。 <p>4. 今後のワーキングの進め方について</p> <p>○次回の検討内容</p> <p>それぞれの年代別（小中学校→高校→成人→高齢）にどのような情報が必要なのか、事務局がたたき台を作成してみる。次回部会ではその内容について、参加者で意見交換を行っていく。</p> <p>○次回の参加者</p> <p>本日の参加者に加え、欠席された湘南おやじの会の佐藤さんや部会長の棚橋さんにも参加いただける日を調整していく。</p>
<p>当日資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 地域支援体制強化部会 情報提供の在り方ワーキング 次第 ・ちがさき障がい者支援アプリがスタートしました（資料1） ・令和4年度第1回地域支援体制強化部会報告書（資料2） ・小グループ意見交換会（資料3） ・第6期障害福祉計画 P52～53、P72～73 抜粋（資料4）

茅ヶ崎市自立支援協議会地域支援体制強化部会報告書(令和4年度第2回医療的ケアワーキング)

件名	2022年度 地域支援体制強化部会 第2回医療的ケアワーキング報告書
日時	令和5年3月1日(水) 14時35分～17時30分
場所	こどもデイサービスにじ
事務局	生活相談室とれいん
出席者	<p>※出席者については部会員のうち、ワーキングのメンバーのみとなります。</p> <p><input type="checkbox"/>菅野 久子(当事者)</p> <p><input type="checkbox"/>下村 耕一郎氏(神奈川県立茅ヶ崎養護学校)</p> <p><input type="checkbox"/>田邊 貴祥(茅ヶ崎市地域作業所連絡会)</p> <p><input type="checkbox"/>野口 新平(茅ヶ崎市・寒川町相談支援事業所連絡会)</p> <p><input type="checkbox"/>田島 淳一郎(茅ヶ崎市・寒川町居宅介護事業所連絡会)</p> <p><input type="checkbox"/>棚橋 利恵(茅ヶ崎市・寒川町ホーム連絡会)</p> <p><input type="checkbox"/>植野 ゆかり(茅ヶ崎市障害者施設連絡会)</p> <p><input type="checkbox"/>毛利 和夫(茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会)</p> <p><input type="checkbox"/>上杉 桂子(茅ヶ崎市障害者団体連絡会)</p> <p><input type="checkbox"/>佐藤 力哉(茅ヶ崎市障害者団体連絡会)</p> <p><input type="checkbox"/>尾辻 涼(茅ヶ崎市保健所)</p> <p>■鈴木 敦之(茅ヶ崎市障がい福祉課)</p> <p>■原田 純子(サポートメンバー:こどもデイサービスにじ(医療的ケア児等コーディネーター))</p> <p>■榎園 貴子(サポートメンバー:生活相談室とれいん(医療的ケア児等コーディネーター))</p> <p>■柴田 萌々(サポートメンバー:つつじ学園(医療的ケア児等コーディネーター))</p> <p>■加藤 郁子(事務局:生活相談室とれいん)</p> <p>■堀井 雪江(事務局:生活相談室とれいん)</p> <p style="text-align: right;">■出席 <input type="checkbox"/>欠席</p>
議題・検討内容	<p>1. あいさつ・自己紹介(資料1)</p> <p>事務局生活相談室とれいん堀井より開会の挨拶と欠席の部会員(下村氏、田島氏)の紹介。</p> <p>2. Aくんの通所について</p> <p>○前回ワーキング後の状況(報告)</p> <p>・幼稚園には全園に廣瀬氏から打診したが、受け入れの検討ができる回答は2園のみ。2園も受け入れが可能というわけではなく、「検討が出来る可能性がある」という段階で、消極的な印象であった。保育園は回答待ちの状況で、3月上旬回</p>

答頂く予定。

○報告をふまえての意見

・他市でも同様の課題があり、幼稚園に訪看が行って対応するというのを伊勢原市や秦野市、藤沢市では行っていると聞いている。医療的ケア児等コーディネーターができてこれを作ったというよりは、もともとその方向で動いていたようである。キーとしては助成ができる事か。茅ヶ崎はまだ助成はない。

・県の医療的ケア児の通学支援では、訪看が増えてきている事もあり手を上げてくれる事が多い印象がある。こういう制度があればやってみたいというところも出てくるのではないかな。

・つつじ学園にも知的に障害のない軟骨無形成症の子が通ってきているが、その子は難病の要件で行く事が出来ている。知的に障害があったり、指定難病であったりする子の方が利用できる選択肢がある現状があるか。

・今難しいとなると、もう1年は通園難しいか。このまま年数が経つと小学校に上がる時期になってしまう。小学生からは自分で薬を使用しコントロールしていく事が求められる子だと思われる。しかし、きっとこれまで声を上げられなかっただけで同じように未就学児の時に親が何とか対応してきた方たちはいたはずで、今回も年数が経てば問題が終わり目が向けられなくなってしまうが、それではこの先も解決されず繰り返していってしまう。

3. 医療的ケア児等コーディネーターの役割について

○2022年度の取り組み状況について原田氏より

・2022年6月から、圏域ごとに曜日別に電話を持って対応している。湘南東部の圏域の担当は水曜で、藤沢のコーディネーターと交代で対応している。圏域外からも相談が来るので、その場合は一旦受けて担当の窓口へつなげている。開始してからこれまで50件ほど実際に対応してきたが、茅ヶ崎市外の方の相談が多い。

・実際の内容としては、県の医療的ケア情報センターの窓口で受けた相談のシートが来るので、先方に連絡してヒアリングしたり、直接来た電話に対応したりしている。対応の時間は決まっているものの、一度だけだが早朝から緊急で相談したいと電話が来た事もあった。

○2023年度以降の配置等について

榎園氏より) 圏域の連絡会で説明があった、圏域に主任コーディネーターを配置し、各市町村のコーディネーターと連携して進めていく内容について報告。

・市として、コーディネーターに何をしてもらおうかというのは全く決まっていない。整理されるまでは障がい福祉課へつないでもらうか。

○各コーディネーターが感じている課題について

・コーディネーターとしてどこまで関わったら良いのか分からない。ヒアリングして機関へ繋いで終了となるケースもあれば、継続的に聞いているケースもあ

	<p>る。本来業務をしながらでなのでじっくりとは対応する事が難しい現状もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応の中で病院のワーカーと話していると「医療的ケア児等コーディネーターとは何か」聞かれる事も多かった。コーディネーターとしても役割が明確でない事もあり、どう説明したらよいか戸惑う事が多かった。相談支援専門員がコーディネーターをしている所の中には、自立支援協議会をまきこんで行い、結果周知もされてたくさん相談がきているような場所もあると聞いている。 ・医療的ケア児支援情報センターがあるというのは親の会に伝わっているが、来年度から体制が代わるというのは伝わっていない。茅ヶ崎の場合はこうなりますという事が決まればそれも併せてお伝えした方が良いでしょう。 ・相談を受けるには自分が何者なのか説明できないといけない。何ができるのか明確にする事で相談しやすくなり、相談を受ける側も受けやすくなる。その仕組みを整えていく必要がある。 ・看護師や相談支援専門員等同じコーディネーターでも職種が違う事も相まって、より役割が曖昧になっている。それぞれの専門性に寄る得意不得意は出てくる。自分は看護師なので医療の必要な所生活で必要な所を吸い上げることは長けているが、そこからつなげたりコーディネートしたりするのは慣れていないと感じている。相談支援専門員やワーカーとうまく連携して行けると良い。 ・現場では非常にたくさんの困りごとを聞くが、家族は窓口を伝えても相談しようという余力自体ない。普段必要な市の手続きに行く余力もない方が多いので、だからこそ取りまとめていく必要があると思う。 ・今までのように親が個々に窓口に行ってそれぞれ相談したり諦めたりという事を続けていくのでは意味がなく、そうならないようにせつかく研修を受けてコーディネーターになったので連絡会のようなものができて課題を共有したり、対応を検討したり、相談したりしていけると良い。 <p>4. その他</p> <p>○その他の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が行っている医療的ケア児の通学支援について、看護師は見つかっているが、福祉車両が見つからない。手を上げた事業所もあったが、福祉有償運送の登録をしなければならなかったりするので、県の基準ではハードルが高いのが現状である。今は母が福祉タクシーに当たって直接やり取りしてコーディネートしているので、相談できる窓口が必要と思われる。既存の福祉タクシーや特に新規参入する福祉タクシーと何とか協力して出来ないか。 ・医療的ケアが必要な方に対して、様々な課題があるが、特に短期入所先がない事は課題であると思われる。
<p>当日資料</p>	<p>・2022年度 地域支援体制強化部会 第2回医療ケアワーキング次第</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・2022年度 地域支援体制強化部会 医療ケアワーキング 会議報告書・小グループ名簿（資料1） |
|--|--|

茅ヶ崎市自立支援協議会地域支援体制強化部会報告書（令和5年度第1回医療的ケアワーキング）

件名	2023年度 地域支援体制強化部会 第1回医療的ケアワーキング報告書
日時	2023年7月10日（月） 18時30分～21時30分
場所	茅ヶ崎市分庁舎F会議室
事務局	生活相談室とれいん
出席者	<p>※出席者については部会員のうち、ワーキングのメンバーのみとなります。</p> <p><input type="checkbox"/>菅野 久子（当事者）</p> <p><input type="checkbox"/>下村 耕一郎氏（神奈川県立茅ヶ崎支援学校）</p> <p><input type="checkbox"/>田邊 貴祥（茅ヶ崎市地域作業所連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>野口 新平（茅ヶ崎市・寒川町相談支援事業所連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>田島 淳一郎（茅ヶ崎市・寒川町居宅介護事業所連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>棚橋 利恵（茅ヶ崎市・寒川町ホーム連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>植野 ゆかり（茅ヶ崎市障害者施設連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>毛利 和夫（茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会）</p> <p><input type="checkbox"/>上杉 桂子（茅ヶ崎市障害者団体連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>佐藤 力哉（茅ヶ崎市障害者団体連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/>尾辻 涼（茅ヶ崎市保健所）</p> <p>■鈴木 敦之（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■原田 純子（サポートメンバー：こどもデイサービスにじ（医療的ケア児等コーディネーター））</p> <p>■榎園 貴子（サポートメンバー：生活相談室とれいん（医療的ケア児等コーディネーター））</p> <p>■大畑 純子・大八木 元・小清水 茜、小林 彩美（自立支援協議会事務局：茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■安田のり子（事務局：生活相談室とれいん）</p> <p style="text-align: right;">■出席 <input type="checkbox"/>欠席</p>
議題・検討内容	<p>1. 医療的ケアがある方への支援体制づくりの現状とコーディネータの配置について</p> <p>障がい福祉課より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年に医ケア児の支援法が出来て圏域内の藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町でどのような事が出来るのか話し合ってきた。 ・令和4年度、神奈川県に相談窓口が出来、モデル的に相談支援を進めてきたが、今後は各市町村の取組みになっていくため、意見交換を行いたい。コーディネーターの皆さんの仕事がある中で、どれだけコーディネーター的役割としての活動をお願いしていいのか。 ・圏域については、藤沢のNPO法人の「ぐータッチ」に主任コーディネーターがいてランチ機能を担うよう県から委託を受けているが、ランチでは直接相

談は受けず、支援機関の後方支援が主な役割となっている。

・茅ヶ崎市では、現時点では市で医ケア児等の支援に関する課題を集約し、情報を共有していきたい。

コーディネーターより

・昨年1年やってみて、医療的な立場や視点で話すことはできたが、サービス調整や相談を受けることは出来なかった。

→相談内容をどうつないでいけば良いか。結果、あっちこちたらい回しになってしまった。縦割りの繋がり(圏域でのケース会議)ではなく、実際に困っている地域の家族に対してどうしたらいいのか。

・昨年度の傾向をみると早く取り組んであげたい、始めなくてははと思ってしまう。子供はどんどん成長していくのに問題は何も解決していない。

・情報共有出来る関係性が必要である。

・一番求められていることは“困った時に動いてくれる人”なのではないか。コーディネーターは伴走者的な役割で細く長く関わり続けられる支援者となれると良いのでは。

・当事者・ご家族は、ライフステージが変わる時に困り事が出てくる。

・乳幼児から保育園・幼稚園への通園、入学・進学、卒業後の進路、それぞれに難しさがあり、家族も悩んでいる。人数は多くないので、幼少期からどのような資源が必要か、見据えながら準備できるような横断的な話し合いの場や支援者のつながりがつくれると良いのではないか。

2. 在宅で医療的ケアのある方や介護(看護)している家族等が抱える困りごとなどについて

障がい福祉課より

- ① 医療的ケア児在宅レスパイト事業
- ② 医療的ケア児非常用補助電源装置等給付事業
- ③ ケア付き通学支援事業

が現在県の補助制度としてあるが、利用される当事者はどの程度見込まれるか？

コーディネーターより

どれも当事者の家族に聞くと利用したい要望高い。特に非常用電源装置は希望が高いように感じている。アンケートではなく日常会話でのリサーチだが、ご家族は期待しているように感じる。

1. 2. の議題とも

今後継続的な意見交換の中で整理していきたい、と茅ヶ崎市・コーディネーターの双方より意見あり。次回9月を目途に開催を予定することとした。

当日資料	・2023 年度 地域支援体制強化部会 第1回医療ケアワーキング次第